



富山市教育センターだより
第41号
平成30年12月21日
富山市八人町5-17
TEL 076-431-4404
<http://www.tym.ed.jp/c10>

- 学校教育課発
- 学校保健課発
- 教育センター発
- 初任者・新規採用教職員紹介
- 学校・園紹介

(題字「道」明瀬 正則)

「学校だよりから」

富山市教育委員会事務局長 立花 宗一

ある日偶然、とある小学校の学校だよりに目がとまり、巻頭に書かれた「誰にも言えない話」と題するエピソードを読みました。

そのエピソードは、先生が朝の会で「誰にも言えない話」をテーマにしたところ、「ある児童が、『実は温室のガラスを割ったのは私です。わざとじゃないのです。ごめんなさい』と泣きながら告白した。聞いていた子どもたちは、『いいよ』と即答で許した。正直に語った児童の勇気とそれをさりげなく受け止めた学級の子どもたちに心から感謝している」というものでした。

このエピソードを読んだ瞬間、ジーンとこみ上げてくるものがあり、同時に、あるシーンを思い出しました。

それは、我が家の長女が小学校高学年の頃の運動会でのシーンです。たしかチーム対抗の大玉ころがしのゲーム中だったと思います。断トツで調子よくトップを行っていたあるチームですが、特別な支援を必要とする子の出番になったところで、他のチームにどんどん追い越されていきます。チームの間は大きな声で一懸命その子を応援します。結局そのチームは負けてしまいましたが、みんな落胆するどころか、明るい笑顔でその子を励ましています。

この場面は今でも忘れることができません。何度思い出しても胸が熱くなります。

きっと、そのチームの子どもたちにとっては、特別な支援を必要とする子と一緒にゲームをするのは普通のことであり、負けることも普通のこととして受け入れることができるという、いわば等しく生きる社会の価値観を、知らず知らずのうちに身につけていたのではないのでしょうか。

こんな美しい光景が、実にさりげなく、自然に見られたことが、私にとってはいい意味で衝撃的であり、改めて集団で学ぶことの素晴らしさ、学校の教育力の確かさというものを実感させられた出来事でした。

こういう光景はどの学校でも見られることなのか、それとも特別なことなのかはわかりません。しかし、少なくとも、私の学校に対する敬意と信頼感がより高まったことは間違いありません。

その後、年月を経て、私は現在、教育委員会事務局長という立場にいますが、学校に対する敬意と信頼感は今も変わりません。そして、学校がより円滑に運営されるよう、様々な形で支援する仕事をさせていただけることは、私の大きな喜びです。

学校教育には様々な課題が山積している状況ですが、現場を大切にしながら、教育環境の向上をはじめ、各種施策の推進に、今後も微力を尽くしていきたいと考えています。